

令和4年度 東京都立神津高等学校 学校運営連絡協議会報告書

1 組織

- (1) 都立神津高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成、副校長、進路指導主任 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任 計6名
- (4) 協議委員の構成
PTA会長、神津島村教育委員会教育長、神津島村立中学校長、神津島村立小学校長、
神津島村漁業協同組合長、神津島南駐在所所長 神津高等学校同窓会会長
神津島村教育委員、しらすな寮長、計9名
- (5) 評価委員の構成
校長 副校長、PTA会長、神津島村立中学校長 計4名

2 令和4年度学校運営連絡協議会（以下、協議会）の概要

- (1) 協議会の開催日時及び内容
第1回 6月3日（金） 午後4時00分～午後5時00分 内部委員6名、協議委員8名
協議委員及び評価委員の委嘱、委員紹介、令和3年度学校経営報告計画及び令和4年度学校
経営計画説明、学校の現状・課題及び指導の方針説明、協議等
第2回 11月7日（月） 午後4時00分～午後5時00分 内部委員5名、協議委員5名
今年度の指導経過と現状について報告、学校評価アンケートの観点・項目・内容の検討、協
議等
第3回 2月4日（土） 午後4時00分～午後5時00分 内部委員6名、協議委員9名
今年度の指導の成果について報告、学校評価アンケート集計結果の分析・考察・提言、協議等
- (2) 評価委員会実施日時及び内容
第1回 11月4日（金） 午後4時から午後4時30分 内部委員2名、協議委員2名
学校評価の観点及びアンケート質問の検討、評価者の検討等
第2回 2月4日（土） 午後3時30分～午後4時00分 内部委員2名、協議委員2名
アンケート結果の分析、評価報告書の作成等

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点
生徒・保護者（一部地域の皆様）に対して
①学校生活全般に対する満足度 ②HR、授業に対する満足度 ③生活習慣、生活指導、部活動
に対する意識・満足度 ④進路や検定に関する満足度 ⑤環境に関する満足度 の観点で実
施する。
地域の皆様に対して
①学校生活全般 ②情報発信 ③地域との連携 ④生徒の規範意識 の観点で実施する
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模：
・12月 全校生徒 対象： 54人 回収： 54人 回収率： 100%
・12月 保護者全員 対象： 51人 回収： 50人 回収率： 98%
・12月 地域・住民 対象： 60人 回収： 59人 回収率： 98%
・12月 教員 対象： 18人 回収： 18人 回収率： 100%
- (3) 評価結果の概要・分析・考察・課題
①本校の教育活動におおむね満足している。（生徒96%保護者98%地域90%）
詳細は別紙参照

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ① 地域住民及び中学校教員・中学校生徒保護者を含めた広範囲へアンケート結果の内容や協議委員から意見を伺い、現時点における課題等を把握することができた。
- ② 地域住民が本校の教育に興味・関心をもっており、一定の評価を得ていることが把握できた。
- ③ コロナ禍で地域と交流が不十分である中、情報収集や情報発信の場となった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ① 小学校、中学校、高等学校で連携し、家庭学習習慣を習慣化させる。
- ② 地域人材を活用し、総合的な探究の時間を充実させる。
- ③ 読書について魅力を伝え価値付けさせながら、生徒が主体的な読書活動を促進できるよう、指導改善を行う。
- ④ 生活指導の方針や方策を生徒及び保護者に浸透させる。
- ⑤ 学校からの情報発信をより一層充実させる。
- ⑥ 地域と連携した防災教育により一層の充実を図る。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ① 地域や保護者のみならず、外部機関と連携して、より活発な教育活動を展開する。
- ② 学校の教育活動を理解してもらうためのPR動を活性化する。
- ③ 学校評価結果を踏まえ、教育活動全般を見直していく。特に、生徒、保護者及び教員の評価に乖離がある内容について、重点的に検証を重ね、改善を図っていく。

(2) 学習指導

- ① 家庭学習の定着及び放課後等の講習を活用し、基礎学力の向上を図る。
- ② 教員間での授業見学や中学校と連携し授業参観を行う等、授業改善に努める。
- ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けての授業改善を行う。
- ④ 一人1台のタブレットの活用について研修し、個別最適化した学びの実現を目指す。

(3) 特別活動

- ① 地域と連携しながら部活動の充実を図り、大会参加等を促進していく。
- ② 地域の協力を得て学校行事やホームルーム活動をより一層活性化し、村民運動会等の機会を学習課題として、地域住民としての当事者意識を育成する。

(4) 生活指導

- ① 基本的生活習慣を身に付けさせ、地域や保護者と連携したマナー教育（特に挨拶）を徹底する。
- ② 「学校のきまり」について、生徒、保護者、教員の三者で確実な共有を図る。
- ③ 地域の小学生、中学生の模範となるよう、規範意識も向上に努める。

(5) 進路指導

- ① ケース会議の内容を充実させ、個々の適正や希望を踏まえた進路指導を実践する。
- ② 早期の進路志望決定と全校体制による面接・小論文等の進学対策を実施する。
- ③ 希望進路実現に向け、講習等の取組を更に充実させる。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9名

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数 8人

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
8			1			

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

参加実績 ・職員会議 0回 ・企画調整会議 0回

8 その他

- ① 地域・住民の評価アンケートの対象に中学校教員を加えたことで、高校の生徒指導と異なる視点での回答を得られた。小中学生の模範となるよう、指導方法の改善に活かしていく。